

令和元年6月21日現在

機関番号：47701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02775

研究課題名(和文) 日中感情表現の対照研究 選好される言語形式からみるコミュニケーションの志向性

研究課題名(英文) A Contrastive Study of Emotional Expression in Japanese and Chinese: From Preferred Language Forms to Style of Communication

研究代表者

楊虹(YANG, HONG)

鹿兒島県立短期大学・その他部局等【文学科(日本語日本文学専攻、英語英文学専攻)、生活科学科(食物栄養専攻、生活科学専攻)、商経学科(経済専攻、経営情報専攻)、第二部商経学科】・教授

研究者番号：20571607

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：不満表現、呼びかけ語、感動詞の使用という3つの観点から日本語と中国語の感情表現を対照分析し、両言語の共通点と差異を明らかにした。日本語では、非明示的で、相手とのやり取りを縮めることを志向した表現形式が多いのに対して、中国語では双方向的なやり取りを志向した表現形式がより多くみられ、表出した感情を確実に相手に届くように強く働きかけるという特徴がみられた。また、会話のスタイルにおいても、聞き手として頻繁に感情表出をする日本語と異なり、中国語では、話し手として感情表出の感動詞の使用により相手に積極的に働きかけるという特徴がみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、同じ感情を表現する際の日本語と中国語の言語形式の異同を明らかにし、それぞれの言語類型の特徴及び文化的側面を考察した。日中対照研究の分野において、感動詞や呼びかけ語など実証的に両言語の相違を示した研究は少なく、本研究は先駆的といえる。また、本研究で得られた知見は、日中異文化間理解やコミュニケーション研究に寄与し、日本語教育・中国語教育といった言語教育に還元できる。

研究成果の概要(英文)：The present study compares expressions of emotion in Japanese and Chinese as exemplified by interjections, terms of address, and signs of dissatisfaction.

There are remarkable differences in how Japanese and Chinese express dissatisfaction to others. One difference is that, while Japanese express dissatisfaction using forms whose meaning is implicit, Chinese speakers do so in a way that calls upon addressees to respond. This suggests that Chinese speakers are more inclined to seek feedback. In addition, Chinese speakers appeal to the addressees' emotions by making more frequent use of direct address. Moreover, the use of interjections in Chinese and Japanese conversation varies widely. Whereas Japanese speakers employ certain interjections to express surprise as a way of conveying interest in what their conversation partners have said, Chinese use them to elicit others' interest in the things they recount.

研究分野：対照研究

キーワード：日中対照 日本語教育 談話分析 言語行動

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

本研究のねらいは、日中間の相互理解を促進するために言語教育や研究の分野ではどのように貢献できるかを探ることにある。これまで、日中の異文化間研究においては、ビジネス場面の慣習や意識に関する研究が多くみられ、双方の相違点などに関する知見もある程度蓄積されてきた。しかし、差異はビジネス場面に限らず、日常生活のありとあらゆる場面にあり、より広範な研究が必要である。本研究は、日常生活を営む際に生まれる様々な感情表現に着目し、日中間の対照研究を行うことにより、同じ感情を表現するための言語形式の相違を分析することにより、日中の両言語のコミュニケーションの特徴の相違や、それぞれの社会文化的側面の影響を明らかにすることができると思われる。

### 2. 研究の目的

日本及び中国の映画やテレビドラマにみられる感情表現とその吹き替えを比較し、同じ感情を表現する際に、日本語と中国語はそれぞれどのような言語形式を用いるか、どのような相違があるかを明らかにする。その結果を踏まえて、感情表現における日本語と中国語の類型論的考察を行い、日本語及び中国語学習者への会話教育に具体的な場面を提示し、指導方法を提案する。

### 3. 研究の方法

日本語と中国語では、同じ場面においてどのような言語形式が選択されるか、両言語で比較可能なデータとして、映画及びテレビドラマの登場人物のセリフとその吹き替えを用いる。具体的には、1990年代以降の現代の生活を題材として、日本及び中国で公開・放送された映画、ドラマと、それをもう一方の国で翻訳版として公開・放送された映画・ドラマを収集し、登場人物のセリフとその吹き替えの文字化資料を作成して、それぞれの言語において、ある特定の感情を表出する際にどのような言語形式が用いられるか、発話文の構造や、談話の構成などを比較対照し、両言語の感情表現の共通点と相違点を考察していく。さらに、映画等フィクション作品の分析で得られた知見を踏まえ、自然会話における日中の感情表現の特徴を比較し、学習者への教育においてどのような応用が可能かについて検討する。

### 4. 研究成果

#### (1) 不満表明の日中比較

日常生活において、話者の感情を明確に相手に伝えることを目的として産出される感情表現の一つに不満表現がある。本研究では、日中の不満表現の比較を通して、日中の感情表出及び言語コミュニケーションの異なる特徴がみられた。

分析は、日中の映画、ドラマ作品を対象に、「日本語作品の原語＋中国語吹き替え」及び「中国語作品の原語＋日本語吹き替え」をデータとした。不満表現の発話機能の分類を行った結果、日本語では、最も直接性が低く、聞き手への働きかけの度合いが低い「自らの行為や状況、認識の提示」が他を引き離して最も多く見られるのに対し、中国語では、直接性がより高く、聞き手への働きかけの度合いも高い「理由・説明要求」が最も多く見られ、「自らの行為や状況、認識の提示」は次いで多かった。「理由・説明要求」は、聞き手に理由を尋ね、説明を求める形で、なんらかの申し開きや弁解の機会を相手に与えることから、不満を述べる側と述べられる側の間にやり取りが生まれることが予想される。ここから、日本語と比べて、中国語の不満表明に対話的な要素が強いことが推察される。

また、日中ともに多く見られた「自らの行為や状況、認識の提示」の言語形式に焦点を当て、吹き替え版のセリフとの比較も含めて、修辭的疑問文と終助詞の使用という2つの観点から分析及び考察を行った。その結果、日本語では、話し手と聞き手の認識のギャップや対立を顕在化し、話し手の認識を聞き手に押し付ける機能を持つ「だろう」と「よ」が多く用いられたのに対し、中国語では、聞き手から返答を引き出す「確認・同意要求」や、聞き手を説得し、働きかけの度合いのより高い文末語気助詞が多く見られた。これら言語形式の比較から、日中両言語の不満表明の異なる特徴が示唆された。すなわち日本語では、話し手の強い気持ちをぶつけるのみで、聞き手の返答や反論を想定していない一方向的な感情表現となりやすいのに対して、中国語では、聞き手の返答も想定され、対話のチャンネルが開かれている双方向的やり取りを志向している。

以上から、回避せずに不満表明をあえてするという場面において、相手とのやり取りを短く縮める方向に働き、そのため相手の返答や説明を求めない一方的な認識・感情の表出となりやすい日本語と、相手の自己弁護も含む返答や反論を引き出すように双方向的なやり取りが続きやすい中国語、という日中における異なる特徴が明らかになった。

#### (2) 呼びかけ表現の日中比較

日本および中国の映画・ドラマ作品に見られる呼びかけ語の分析を通して、日本語と中国語における呼びかけ語の機能の共通点と相違点を示し、感情表出の調整における呼びかけ表現の働きにおいて、日中では異なる特徴がみられることを指摘した。

上記(1)と同様のデータを用いて、日本語と中国語の映画・ドラマ作品にみられた呼びかけ語の機能及び出現頻度を比較し、さらに原語とその吹き替え版での訳出を比較し、訳出の脱

落または追加の有無を分析した。

その結果、呼びかけ語の機能は、①対話者の特定、②発話行為の実現、③感情表出の調整という3つに分類できる。それぞれの機能の生起数を比べてみると、「対話者の特定」と「発話行為の実現」では、中国語がわずかに多い程度であるが、「感情表出の調整」においては、中国語での生起数は日本語の2倍以上であることがわかった。

また、「感情表出の調整」機能に注目し、吹き替え版の対訳と比較分析した結果、1. 呼びかけ語が訳されない割合は、「日本語→中国語」では、約1割であるのに対し、「中国語→日本語訳」では、3割を超える。2. 吹き替え版で呼びかけ語が追加されるものについては、日本語では9回であるのに対し、中国語では、63回であった。これらの結果から、同じ場面において、日本語では呼びかけ語がみられないが中国語では呼びかけ語を用いた感情表出がみられるものが多いということが明らかになった。

呼びかけ語を伴う発話全体がどのような発話行為であるかについて分析した結果、中国語では、相手に喜び、感謝、詫びのこぼを述べる、助言・説明・説得・反論をする、懇願する、叱りつける、たしなめるなど、様々な場面で見られ、日本語と比べ、中国語の呼びかけ語は感情や気持ちの表出に重要な役割を担うことが示唆された。

### (3) 感情表出の感動詞の日中比較

感情を表出する際、上記のような明示的な表現で話者の感情を示す場合もあれば、語彙的意味を持たない感動詞で表出することもある。感動詞は、話し手の無意識な表出から、計算された、演技的な表出まで、さまざまなレベルがある。映画・ドラマにみられる感動詞の生起特徴から日常会話における感動詞の使用実態まで、日中間の感動詞の使用の特徴の一端を明らかにした。

まず、映画・ドラマでみられた感動詞を分析し、日本語と中国語の感情表出の感動詞の対応関係を探った。中国語において、生起頻度が高く、形式と意味において類似性が多い、驚きや不満などを表す“唉”“哎呀”“哎哟”を取り上げ、その日本語訳と比較した。

その結果、“唉”“哎呀”“哎哟”に共通してみられた場面は不満と落胆・嘆きである。“唉”が不満を述べる場面に集中しているのに対して、“哎呀”と“哎哟”では、全体の半分以下にとどまる。また、“哎哟”の生起する場面のバリエーションが最も多い。それぞれの場面をより詳細に見ていくと、まず“唉”は、不満感情を表出する場面で、相手になんらかの行為を要求するという聞き手への働きかけが比較的多くみられる。一方、“哎呀”は、説明の場面が不満よりも多くみられた。説明は、先行文脈にある自分の言動の合理性、正当性を主張する釈明や言い訳的な発話をまとめたラベルである。単なる喜怒哀楽の気持ちを表すのではなく、話し手のその場での主張をより強化する役割を果たす。また、“哎哟”の場合、様々な場面で生起し、中でも大げさに感情を表出する場面が多くみられ、場合によって芝居がかったような印象を与える。中国語では、これら3つの感嘆詞は、日本語では19の異なる感動詞に訳出されていることから、中国では、同じ言語形式で話者の様々な感情を表現しているが、日本語では、より多くの感動詞が用いられることがわかった。また、対応する感動詞の訳出がないものが多いということがわかった。

次に、上記とは逆のアプローチで、日本語の感動詞が中国語にどのように訳されるかについて分析した。日本語の映画・ドラマに生起した感動詞のうち、出現頻度の高い感動詞は、音の長さや上昇/下降といったイントネーションのバリエーションが異なるものを含む「あ」「あら」「あれ」「え」「へ」「わ」に集中することがわかった。これらの感動詞は、いずれも意外・驚きを表すことができるが、単に意外な気持ちの表出(ニュートラル)の場合もあれば、事柄に対するポジティブな評価(賛嘆、感心、驚嘆など)またはネガティブな評価(不満、落胆など)を加える場合がある。これらの感動詞の中国語訳と対照した結果、付加する評価的感情の違いにより、一定の対応関係がみられた(表1参照)。

表1 意味機能別の中国語訳との対応関係

|          | ポジティブ評価  | ネガティブ評価  | ニュートラル |
|----------|----------|----------|--------|
|          | 賛嘆・驚嘆・感心 | 不満・落胆    | 意外(儀礼) |
| わー       |          |          |        |
| あー (↑)   | 啊 哇      | 啊↑啊      |        |
| あー↓↑     |          | 啊 哎呀 唉 嗨 |        |
| あら       | 哎呀 哇     | 哎呀       |        |
| あれ↑      |          |          | 啊↑唉↑嗯↑ |
| え↑/えー(↑) |          | 啊↑       | 唉↑嗯↑   |
| へー↑      | 哇 唉↑     | 啊↑唉      | 嗯↑(なし) |

表1から感動詞の日中対応の傾向について、下記5点が指摘できる。

- 1) 「啊」と「哎呀」は、ポジティブ評価とネガティブ評価のいずれにも用いられる。
- 2) 上昇調の「啊」と「唉」では、不満では「啊↑」、意外では「唉↑」と使い分けられる。
- 3) 下降調の「唉」は不満を表す。
- 4) 上昇調の「唉↑」「嗯↑」は評価的度合いが弱い意外を表す場合に用いられやすい。
- 5) 「哇」はポジティブの感情表出に用いられる。

上記のフィクション作品を対象とした研究で得られた知見を踏まえ、日常会話における感動詞の使用実態を分析した。日本語教育への応用から、中国人日本語学習者が日本語による会話において不自然な使用がみられた、驚き・意外の感情を示す感動詞「へー」と「えー」に注目した。学習者の不自然な使用に影響をもたらす要因を明らかにするため、会話における「へー」と「えー」の異なる働きを分析し、さらに日本語の「へー」「えー」と学習者の母語である中国語の驚きを示す一連の感動詞の使用の特徴との比較を行った。分析の結果、まず日本語の「へー」と「えー」の相違点として次の3点が指摘できる。①「えー」と比べて、「へー」は、会話における使用頻度が顕著に高い。②「へー」には、聞き手が相手のターン進行中に産出するものが多いが、「えー」にはほとんどみられない。③「えー」と比べ、「へー」は、単独での生起が多くみられる。相手の発話に気持ちを表出しながら、価値判断に関わる具体的な評価を下さないため、デリケートな場面における聞き手のストラテジーとして利用されやすい。

次に、「へー」「えー」と中国語の感動詞とを比較した結果、①生起頻度に日中の中で大差がみられ、中国語の生起頻度は低い。②日本語と異なり、中国語の場合、相手の発話への反応だけでなく、自らの発話内容に関する内発的な感情表出にも感動詞が用いられる。つまり、日本語では、主に聞き手として相手の発話への反応として産出しているが、中国語では、語りの方向付けや、説明や主張をする際に、相手を惹きつける話し手の会話ストラテジーとしても感動詞が用いられる。③日本語の「へー」と大きく異なり、「えー」の特徴に近い。すなわち中国語では相手の発話への単独での反応としての産出が少なく、具体的な評価的スタンスの明示を回避するストラテジーとして感動詞が使用されることは少ない。

以上の比較の結果から、日本語学習者の不自然な使用に影響を与えることとしては、「へー」と「えー」の意味機能の違いが把握できていないことや、中国語の感動詞の日本語とは異なる使い方があげられる。

#### (4) まとめ

本研究は、不満表現、呼びかけ語、感動詞の使用という3つの観点から日本語と中国語の感情表現を対照分析し、両言語の共通点と差異を明らかにした。本研究の結果から、日中のコミュニケーションのスタイルの相違の一端が窺われた。不満表現において、中国語では双方向的なやり取りを志向した表現形式がより多くみられた。また、呼びかけ語の使用の相違から、中国語では、相手呼びかけることによって、受け手の注意を喚起し、表出した感情を確実に相手に届くように働きかけるという特徴がみられた。さらに、感動詞の使用においては、日本語では、会話の聞き手として相手の発話への感情表出を頻繁に行いながら価値判断的な評価を示さないという特徴がみられるが、中国語では、聞き手としての感情表出については、それほど高い頻度がみられないが、価値判断的な評価を示すものが多く、また話し手として相手を自らの語りに惹きつけるためにも感動詞が用いられるという特徴がみられた。このように本研究でみられた日、中間の感情表出の表現の異なる特徴は、日中間のコミュニケーションにおける話し手の働きかけの度合いの違いを示唆する。日本語では、なんらかの感情表出の表現が高い頻度で行われるが、相手に向かって明示的に反応を求め、強く働きかけることは少ない。それに対し、中国語では、明示的な感情表出、相手への積極的な働きかけがより重要な要素と考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計4件)

楊虹、映画における感情表出の感動詞の日中比較、『人文』、査読無、42巻、2018、pp.25-34

楊虹、不満表明に関する日中対照研究—映画・ドラマを素材に、『日本語学研究』、査読有、26巻、2016、pp.132-146

遠山千佳、「自己引用」表現の談話機能と形式—日本語教育の観点から—、『日本語学研究』、査読有、26、2016、pp.117-131

遠山千佳、引用表現『～って』の談話機能—『ビールと餃子だって』がなぜ問題になったか—、Studies in Language Science Working Papers、査読無、5巻、2015、pp.1-15

[学会発表] (計10件)

①楊虹 2018 初対面会話における感動詞「へー」「えー」と「唉“ai”」「哎呀“aiya”」の比較、日本語教育国際大会 ICJLE2018

②楊虹 2018 映画における感情表出の感動詞の比較 - 日本語と中国語の対応関係を探って、日本中国語学会関西地区研究集会

③楊虹 2017 日常会話及び映画に見られる中日母語話者の感動詞による感情表現の比較 - 日

本語教育への応用に向けて 感動詞ワークショップ

- ④遠山千佳 2017 中国人日本語学習者の第一言語と第二言語による指示表現の比較 第 10 回日本語実用言語学国際会議
- ⑤遠山千佳 2017 超上級日本語学習者の物語文におけるトピック管理 言語科学会第 19 回国際年次大会
- ⑥楊虹 2017 日本語と中国語における呼びかけ語の対照研究、第 39 回社会言語科学会
- ⑦楊虹 2016 間接的不満表現におけるモダリティ表現の日中比較、2016 年日本語教育国際研究大会
- ⑧楊虹 2016 中国語と日本語の感情表現に関する一考察—映画における感嘆詞“あい”“あいや”“あいよ”の感情表出機能の分析から—『日本中国語学会第 66 回全国大会』
- ⑨楊虹 2015 不満表明に関する日中対照研究、北京日本語学研究センター設立 30 周年記念国際シンポジウム (国際学会)
- ⑩遠山千佳 2015 映画・ドラマにみられる文末の引用表現『って』の分析—日本語教育の観点から—、北京日本語学研究センター設立 30 周年記念国際シンポジウム

[図書] (計 0 件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：遠山 千佳  
ローマ字氏名：TOHYAMA、Chika  
所属研究機関名：立命館大学  
部局名：法学部  
職名：教授  
研究者番号 (8 桁)：40383400

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：倉田 芳弥、劉 娜  
ローマ字氏名：KURATA、Kaya LIU、Na

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。